障害を恵みに変えるって、どういう事？

障害のある幼児の通園施設の何ケ所から声をかけていただき、お母さんたちと懇談する機会をいただいている。

あるお母さんから次のような初メール（抜粋）をいただいた。

【　友人から、重度障害者入所施設の入所者の「障害があっても恵みに変えて、垣根も偏見もなく共に生きれる社会を創って行きたい」という言葉を紹介されました。

先生に意見を聞かせて欲しいです。

先生は、障害を恵みに変えるって、どういう事だと思いますか？　】

差し当たって、次のように返信した。

【　自分は、簡潔に「生きる喜びとは、①人と係わり合う喜び　②知らないことを知る喜び」と整理して考えています。

ですから、障害があることで、人が本質的に持つ優しさ（HP「雑学 BN」のマスコミ等コメント関係（Ⅳ）、2007.10.09.「人が本来持っている『惻隠の情』」：参照）に触れ合う機会が多く、そのことが「恵み（人と係わり合う喜び＝生きる喜び）」になるのではないかなと思います。

更に云えば、いわゆる障害のある方だけが障害を持って生活しているとは思っていません。

みんなそれぞれの障害状況を抱えながら生きていると思います。

あえて障害児・者と見るのでなく、みんな障害状況を抱えながら生きているのですから、そうした観点からは「みんな同じ」ということを、少しでも理解してもらえればと思っています。

だからこそ、「自らも周りの人に輔けてもらいたいように、互いに輔け合いながら共に生きていこう！」ということが大事になると思っています。　】

みなさんは、「障害を恵みに変えるって、どういう事だと思いますか？」と尋ねられましたら、どうお答えしますか、ご意見をお聞かせください。

阿部幸泰　　（2008 年 11 月 28 日　記）